

平成22年12月28日発行

ISSN 0918-9173

# 福岡県保健環境研究所年報

## 第37号

平成21年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute  
of Health and Environmental Sciences  
No.37 2009*



福岡県保健環境研究所

---



# はじめに

平成21年度の業務および調査研究実績を取りまとめた福岡県保健環境研究所年報をお届けします。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見いただければ幸いに存じます。

当研究所の業務である感染症や食品の安全、環境保全、自然保護といった分野の中で、平成21年度はH1N1型新型インフルエンザへの取り組みが筆頭にあげられます。県内では5月に患者が発生、6月には各地で患者発生が続出、9月には小中学校の学級閉鎖が相次ぎました。当所では4月時点でのメキシコやアメリカでの発生報告を受け、検査体制、情報提供体制を整えるとともに、検査機器の追加整備を行うなど、迅速な対応に努めました。県内での流行も2月に至り終息しました。これらの経緯については巻頭のトピックスに詳しく解説していますので、ご参照ください。

健康危機対応の緊張状態にあったこの1年振り返り、県下の保健、環境行政を支える中核機関としての当研究所の重要性を認識するとともに、技術レベルの向上に日々努力する必要性を改めて痛感いたしました。

技術レベルの向上のためには、研究活動は不可欠です。平成21年度は保健分野8題、環境分野12の研究テーマを実施しました。成果は学会や論文誌に活発に発表しています。こうした研究活動を支える環境整備に向け、競争的研究資金の獲得、産官学や他自治体と連携した共同研究への積極的参画を奨励しています。さらに、これまでの研究枠にとられない柔軟な発想のもとで、成果の充実をはかっていきたいと考えております。

また当研究所は、保健、環境両面での専門的知識、技術を活用し、国内だけでなく広く東アジアの技術者を対象とした研修等を行ってきており、今後さらに充実していきたいと考えております。

当研究所が県下の保健、環境問題に対処する拠点であることを職員一同肝に銘じ、さらなる技術力の向上を目指し、全力で取り組んで参る所存でありますので、皆様の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

平成22年12月

福岡県保健環境研究所長 平田輝昭

